学校番号	203

令和３年度　地理歴史科

教科	地歴	科目	日本史Ａ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	日本史Ａ　（山川出版社）						
副教材等	山川ビジュアル版日本史図録（山川出版社）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・歴史の連続性を感じる。
・歴史の中の原因と結果を意識する。
・歴史の中に現代につながる要素を見いだそうとする。
・歴史を背景とした日本の諸事情を踏まえ、現在の世界のあり方を考える。

２　学習の到達目標

・現代の諸課題を近現代史を中心とする歴史と結びつけ、歴史的観点から考察できる。
・日本の歴史を地理的条件や世界の歴史と関連づけながら理解し、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
・諸資料に親しみ、歴史的思考力を養う。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	近現代史を中心とする日本の歴史に関する関心を持ち、その課題を追求する意欲を高め、国際社会に生き、国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとする。	現代日本の諸課題を歴史的観点から考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	近現代史を中心とする日本の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり、図表になどにまとめたりしている。	近現代史を中心とする日本の歴史についての基本的な事項を地理的条件や世界の歴史と関連づけながら理解し、その知識を身につけている。
評価方法	授業での観察 ワークシート 学習の振り返り	定期テスト(論述など) 討論や発表 ワークシート 学習の振り返り	定期考査(資料やグラフの読取り・分析) 討論や発表 学習の振り返り	定期考査 ワークシート 授業プリント 学習の振り返り

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
一学期	序章　近世社会の動揺と近代への胎動	１．幕藩体制の動揺 ２．新しい経済構造 ３．日本をとりまく世界の変容	○	○	○		a：自分たちが生きている現代の社会を形成してきた過程である歴史への関心を高め，身近な生活文化の背景や，地域のある期間における変化，現代社会の課題を意欲的に調べ，日本史を学ぶ態度を身に付けようとしている。 ｂ：マニュファクチュアの形成、藩政改革、新しい学問の形成など近代化に向けた動きを統一的に考察する。 ｃ:欧米諸国の近代化による国際情勢の変容を、列強のアジア進出・日本への接近の背景として理解する。	授業プリント 討論・発表 定期考査

一学期	第1章　開国と明治維新　一　アジアの激動と日本の開国　二　江戸幕府の滅亡	１．アジア世界の変動 ２．開国前夜の日本 ３．ペリー来航と条約調印	○	○		○	a：開国前後の国際情勢と国内情勢への関心を高め，開国後の社会の変化や権力闘争の経緯を意欲的に調べ，開国と倒幕との関係，倒幕後に徳川氏が排除された意味についての考察を深めようとしている b：資本主義の発達した列強の進出が，東アジアに与えた影響について歴史的に考察し，考察したことを適切に表現している。 内憂外患に苦しむ日本では，天保の改革が失敗し幕府の権威が失墜する中，藩政改革に成功した雄藩が成長したことについて歴史的に考察し，考察したことを適切に表現している。 開国と貿易による幕末の経済や社会の混乱について歴史的に考察し，考察したことを適切に表現している。 横浜と上海が諸外国との窓口として発展した経緯や東アジアの近代化の特徴について歴史的に考察し，考察したことを適切に表現している。資本主義の発達した列強の進出が，東アジアに与えた影響について歴史的に考察し，考察したことを適切に表現している。 ｄ：ペリー来航により幕府の鎖国政策が破綻し，日米修好通商条約を調印するまでの経緯を理解し，その知識を身に付けている。 開国後の政治の主導権をめぐる争いの経緯を理解し，その知識を身に付けている。 薩長同盟の成立から戊辰戦争までの経緯を学び，新政府が徳川氏とそれを支持する勢力を排除したことを理解し，その知識を身に付けている。	授業プリント 定期考査

一学期	三　明治維新　四　富国強兵　五　明治初期の外交　六　殖産興業と文明開化	1．新政府の成立 2．身分制度の解体 3．地租改正と殖産興業 4．文明開化の社会 5．明治初期の外交と内政 6．北海道・琉球と国境問題	○	○	○	○	a：明治新政府の諸改革やそれが社会にもたらした変化への関心を高め，近代的な統一国家の体制を整えるための諸改革について意欲的に調べ，それらがもたらした政治や経済，社会の西洋化について，国民の負担を探る視点からも考察を深めようとしている。 b：新政府の版籍奉還，廃藩置県，四民平等，徴兵令公布，秩禄処分，地租改正，殖産興業などの政策の意味を歴史的に考察し，考察したことを適切に表現している。士族反乱の生じた背景やその鎮圧がその後の政治に与えた影響について歴史的に考察し，考察したことを適切に表現している。 c：徴兵告諭などの史料を正しく読み，明治新政府がめざした近代化の方向性を考察する子如賭して活用している。 d：地租改正により近代的な土地所有権が確立されたこと，政府が財源を確保し，通貨の統一や交通・通信網の整備，官営工場設立など，殖産興業に努めたことを理解し，その知識を身に付けている。岩倉使節団を派遣し欧米に学ぼうとした政府が，東アジア諸国に軍事力を用い，交渉を進めた経緯を理解し，その知識を身に付けている。 　政府が明治初期から，琉球に対して強圧的な態度をとり西の国境を画定していった一方，ロシアとは交渉により国境を画定していったこと，列強諸国に配慮しつつ南の国境を画定していったことを理解し，その知識を身に付けている。参画社会、社会参加、などについて理解し、その知識を身に付けている。	授業プリント 討論・発表 定期考査

一学期	第2章　立件国家の成立　一　自由民権運動　二　立憲制の成立　三　立憲政治の展開	１．自由民権運動と政府の対応 ２．松方財政と民権運動 ３．大日本帝国憲法の制定 ４．初期議会と条約改正 ５．国民文化の諸相	○	○		○	a：近代日本の立憲体制への関心を高め，大日本帝国憲法の制定過程や特徴，同時期の外交政策やアイヌへの対応について意欲的に学び，日本の近代の立憲体制の特徴を追究しようとしている。 b：自由民権運動が近代化の推進に果たした役割や，初期議会における政府と民党との対立と自由民権運動との連続性について歴史的に考察し，考察したことを適切に表現している。 　条約改正交渉の経緯を，国際情勢の変化と関連づけて歴史的に考察し，考察したことを適切に表現している。 d：明治六年の政変後，不平士族を中心に始まった自由民権運動が豪農層に広がり，私擬憲法が盛んに作られるなど活発化すると，政府内部にも国会の開設をめぐる対立が生じ，国会開設の勅諭が出される事態となった経緯を理解し，その知識を身に付けている。 　松方デフレの時期には，民権運動内部の対立や政府の弾圧，激化事件により一時民権運動が衰退したことを理解し，その知識を身に付けている。 　大日本帝国憲法が制定され諸法典が編纂されるまでの経緯と，大日本帝国憲法の特徴（欽定憲法，天皇大権等）を理解し，その知識を身に付けている。 　初期議会における民党と政府との対立の推移を理解し，その知識を身に付けている。	授業プリント 定期考査

二学期	四　日清戦争・日露戦争	１．帝国主義の時代と東アジア ２．日清戦争 ３．日清戦争後の政治と社会		○	○	○	b：日清戦争の原因を，東アジアの伝統的な国際秩序と近代的な国際秩序の衝突という視点から歴史的に考察し，考察したことを適切に表現している。 c：日清戦争に関する歴史地図から，戦争の推移に関する情報を読み取り，日清戦争の原因や結果を示す根拠として活用している。 d：帝国主義の時代に，日本が朝鮮への影響力を強めようとして朝鮮政府や民衆の反発を受けるとともに，清とも対立した過程を理解し，その知識を身に付けている。 　日清戦争の経過と日清戦争が日本と清と朝鮮の関係に与えた影響について理解し，その知識を身に付けている。 　議会運営のために藩閥と政党が接近して政党の政治的影響力が強まる一方，軍部大臣現役武官制が定められ，政党の力を制限しようとする動きがあったことを理解し，その知識を身に付けている。 　戦争を経験することで，国民意識の形成が促されたことを理解し，その知識を身に付けている。	授業プリント 定期考査 宿題プリント

二学期	五　産業革命と社会の変容	１．日英同盟と日露戦争 ２．韓国併合と東アジア ３．産業革命と資本主義の発達 ４．桂園時代と社会問題	○	○	○	○	a：帝国主義の広まりが 20 世紀初頭の国際情勢にもたらした変化や，日露戦争によって日本の政治や経済，社会，国民の意識にもたらされた変化を追究しようとしている。 b：日露戦争の背景，経過，国際情勢や日本の国民意識に与えた影響について歴史的に考察し，考察したことを適切に表現している。 c：日露戦争前後の東アジアに関する歴史地図を分析し，列強の東アジア進出に関する情報を読み取り，日露戦争の原因や影響について考察する材料として活用している。 d：列強による中国分割が進む過程で日本とロシアの対立が生じ，日英同盟が結ばれたことを理解し，その知識を身に付けている。 日本が台湾，朝鮮を植民地とした経緯と支配の方針を理解し，その知識を身に付けている。 辛亥革命により中華民国が成立した経緯とその後の展開を理解し，その知識を身に付けている。 紡績業が成長し，重化学工業が発達すると，財閥が形成されて産業資本の独占が進んだこと，農村では寄生地主制が支配的になったことを理解し，その知識を身に付けている。 近代の北海道開拓の過程で，先住民アイヌが生活の場を奪われ，日本への同化が進められたことを理解し，その知識を身に付けている。	授業プリント 定期考査

二学期	第3章　第一次次世界大戦と日本　一　政党政治の展開	１．政党政治と国際協調 ２．関東大震災と社会の統制 ３．護憲三派内閣と協調外交のゆきづまり		○		○	b:・関東大震災がもたらした経済的打撃，人々の意識や行動の変化について，軍国主義の台頭との関連を追究する視点から，歴史的に考察し，考察したことを適切に表現している。 d: 米騒動後に成立した本格的な政党内閣は，国際協調を目指す英米に協調してワシントン体制に参入し，軍縮を進め，中国進出を後退させたことを理解し，その知識を身に付けている。 　関東大震災は深刻な経済的打撃だけでなく，人々の意識や行動にも混乱と変化を与えたため，軍部の影響力が強まるきっかけともなったことを理解し，その知識を身に付けている。 　第二次護憲運動を経て政党内閣が憲政の常道となり男性普通選挙が実現した背景を，治安維持法も同時期に成立したことをふまえて理解し，その知識を身に付けている。 　普通選挙の実施や協調外交のゆきづまりが政治や社会に与えた影響について理解し，その知識を身に付けている。 　大阪の人口推移や周辺の開発状況を理解し，産業発展の要因や影響について理解し，その知識を身に付けている。	授業プリント 定期考査 グループワーク

二学期	二　ワシントン体制　三　経済・社会の変容　四　市民文化	１．第一次世界大戦と日本の中国侵略 ２．パリ講和会議と東アジアの独立運動 ３．大戦による社会の変化と社会運動 ４．大正デモクラシーの思想と大衆文化 ５．帝国日本と移動する人々	○	○		○	a：第一次世界大戦前後の世界の動向や日本の社会，経済について意欲的に調べている。 b：第一次世界大戦中に，日本が中国への侵略を進めた経緯，それが日本と中国や欧米列強との関係に与えた影響について歴史的に考察し，考察したことを適切に表現している。 d：植民地獲得競争の激化により始まった第一次世界大戦の時期に，日本が中国への侵略を進めた経緯を学び，そのことが日本と中国や欧米列強との関係に与えた影響を理解し，その知識を身に付けている。 国際的に平和やデモクラシーを尊重する風潮が高まり，国際連盟が創設される一方で，列強は自国の権益を維持しようとし，それが各地の民族自決を目指す運動の広がりにつながったことを理解し，その知識を身に付けている。 大戦景気の概要と大戦景気から戦後恐慌にいたる経緯を学び，好況や不況が産業や民衆の生活，社会運動に与えた影響を理解し，その知識を身に付けている。 大正期にデモクラシーの思想が発達するとともに，労働運動や女性運動などの社会運動が組織的に行われるようになり，特に都市では生活や文化に変化が生じたことを理解し，その知識を身に付けている。 膨張する大日本帝国の中で，人々がどのような理由，規模で移動したのかを学び，大日本帝国の実態，それを構成した人々の生活について理解し，その知識を身に付けている。	授業プリント 定期考査

二学期	第4章　昭和の恐慌と満州事変　一　恐慌の時代　二　政党内閣期の内政と外交　三　軍部の台頭	１．昭和恐慌と深刻な不況 ２．満州事変と満州国 ３．軍部の台頭と二・二六事件		○		○	b：長く続く不況が，日本の経済や政治，社会に与えた影響を，軍国主義台頭の要因を追究する視点から歴史的に考察し，考察したことを適切に表現している。 d：昭和恐慌が深刻化し排外熱が高まる中で，メディアにあおられた国民の支持を受けて満州事変が進んだ結果，昭和恐慌からは回復したものの，日本が国際社会から孤立していった経緯を理解し，その知識を身に付けている。 五・一五事件により政党政治の時代が終わると，思想や言論の統制が強化され，二・二六事件をへて軍部が政治への介入を強めていく過程を理解し，その知識を身に付けている。 満州事変が日中戦争に発展した経緯と，日本が中国との講和交渉の道を閉ざし，日中戦争が長期化していく過程について理解し，その知識を身に付けている。 日中戦争が拡大すると，軍需生産の拡大が進む一方，民需では労働力不足や賃金の低下が生じ，国民生活が圧迫されたことを理解し，その知識を身に付けている。 統制経済が実施されるだけではなく，自由主義的な思想が弾圧され，政党や労働組合も解散させられ総力戦を進める体制が整えられていった経緯を理解し，その知識を身に付けている。	授業プリント 定期考査 宿題プリント

二学期	第5章　第二次世界大戦と太平洋戦争　一　日中戦争　二　重化学工業化と統制経済　三　第二次世界大戦と太平洋戦争	１．第二次世界大戦と太平洋戦争 ２．戦時総動員の徹底と矛盾 ３．大東亜共栄圏 ４．大日本帝国の崩壊へ	○	○	○	○	a：太平洋戦争への関心を高め，太平洋戦争にいたる経緯や戦争の展開，戦争下の人々の生活などについて意欲的に調べ，第二次世界大戦が未曾有の被害をもたらした要因を追究しようとしている。 b：太平洋戦争下の日本や占領地の政治や経済体制，社会の実態について，第二次世界大戦が未曽有の被害を生み出した要因を追究する視点から歴史的に考察し，考察したことを適切に表現している。 c：第二次世界大戦の時期の歴史地図を分析し，日本の戦局の変化を示す情報を読み取っている。 d:戦争を遂行するために実施された動員の実態を学び，その動員により労働力不足等の矛盾が生じると，国民の間に厭戦気分が広がったことを理解し，その知識を身に付けている。 　沖縄において琉球語を禁止し標準語を導入していくために学校が大きな役割を果たしたことを学び，学校が標準語の使用を徹底しようとした背景を理解し，その知識を身に付けている。 　戦局が悪化した後も，戦争を継続させたことが，国内・占領地での過酷な動員や徴発による人々の暮らしの圧迫や，米軍の本土空襲による大きな被害につながったことを理解し，その知識を身に付けている。	授業プリント 定期考査

三学期	第6章　占領下の日本　一　占領と改革	１．大戦後の世界と日本 ２．東アジアの再編と人々 ３．本土占領と戦後改革の開始 ４．日本国憲法の制定と戦後改革の進展 ５．困難ななかでの解放感 ６．再建と復興への道	○	○	○	○	a: 第二次世界大戦末期の状況や戦後の世界への関心を高め，沖縄戦の実態や戦後の国際社会の状況，アメリカによる日本占領政策などについて考察を深めようとしている。 b: 第二次世界大戦後の国際情勢の変遷について，東西冷戦との関連を分析する視点から歴史的に考察し，考察したことを適切に表現している。 c:沖縄戦に関する史料を正しく読み，戦争の実態を示す情報を読み取っている。 d: 沖縄戦の実態を学び，住民に大きな被害が出た理由を理解し，その知識を身に付けている。 平和を模索する動きの中から国際連合が成立した一方，アメリカとソ連を二つの極とする東西冷戦が始まったことを理解し，その知識を身に付けている。 GHQの指令を受けて進められた民主化及び非軍事化の内容と経緯，戦後の日本に与えた影響を理解しその知識を身に付けている。 日本国憲法制定の経緯と三原則について理解し，新憲法に基づいて，多くの法律の改正や制定が行われ，改革が進められたことを理解し，その知識を身に付けている。 冷戦下で日米政府が，日本の経済再建を優先することで合意したため，日本の国際経済に復帰する体制が整えられ，朝鮮戦争の特需により経済を復興させられた一方，政治は保守化し，労働運動も圧迫されたことを理解し，身に付けている。	授業プリント 討論・発表 定期考査

三学期	二　冷戦の開始と講和	1．冷戦下の講和 2．保革の対立と55年体制 3．高度経済成長とそのひずみ 4．暮らしの現代化		○	○	○	b：55年体制の成立や日米安全保障条約の改定などのできごとについて，東西冷戦と関連づけて歴史的に考察し，考察したことを適切に表現している。 沖縄の日本復帰について，現代にまで残された課題を追究する視点から歴史的に考察し，考察したことを適切に表現している。 c：景気変動や産業別就業人口に関するグラフから，戦後の経済の変容を示す情報を読み取っている。 d：アメリカの影響下で，ソ連や韓国等と国交交渉を行い，国際社会に復帰していく経緯を理解し，その知識を身に付けている。 東西冷戦が続く中で防衛力が増強され，保守政党が合同して，保守派優位のもとで政治を安定させる55年体制が作られた経緯を理解し，その知識を身に付けている。 日米安全保障条約の改正を目指した政府の主張とそれに反対した人々の意見を整理し，安保条約が改定された経緯を理解し，その知識を身に付けている。 1960年代に政府主導の高度経済成長が実現した一方で，開放経済体制への移行が進み，日本の企業が厳しい国際競争にさらされるようになったこと，過疎・過密や公害などの問題も発生したことを理解し，その知識を身に付けている。 高度経済成長により大衆消費社会が到来し，人々の生活や価値観に大きな変化が生じ，人権を守るために声をあげる人々が現れたことを理解し，その知識を身に付けている。	授業プリント 定期考査

三学期	第7章　経済繁栄と保守長期政権　一　55年体制　二　高度経済成長期の経済と社会	1．転換期をむかえた世界と日本 2．冷戦のゆらぎと日本外交 3．石油危機と国際経済秩序の変化 4．自民党政権と行政改革 5．経済大国と国際化		○		○	b：国際関係や国際経済の構造の変化が，沖縄返還や中華人民共和国との国交正常化などの外交に与えた影響について歴史的に考察し，考察したことを適切に表現している。 d：経済成長を優先した結果公害などの社会問題が生じたため，環境や福祉，平和，女性差別の撤廃等に対する人々の関心が高まり，革新勢力への支持が高まったことを理解し，その知識を身に付けている。 ベトナム戦争への反発から沖縄の日本復帰を目指す運動が高まったにもかかわらず，基地負担を残す形で沖縄が日本に復帰した経緯を理解し，その知識を身に付けている。 冷戦構造に変化が生じる中，日本やアメリカと中華人民共和国との国交正常化が実現したことを理解し，その知識を身に付けている。 ブレトンウッズ体制の崩壊と石油危機により高度経済成長の時代が終わると，英米では新自由主義が広がったこと，日本では企業の減量経営により安定成長が続いたことを理解し，その知識を身に付けている。 自民党が金権腐敗と派閥抗争への批判が高まる中でも政権を維持し，1980 年代には新自由主義の影響を受け行政改革を進めたことを理解し，その知識を身に付けている。 石油危機後も輸出を増加させ，欧米諸国との貿易摩擦を抱えながら経済成長を続けた日本で，バブル景気が発生し崩壊した経緯を理解し，当時の人々の生活や文化を理解し，その知識を身に付けている。	授業プリント 定期考査

三学期	第8章　現代の世界と日本　一　冷戦の終結と日本　二　日本社会の変容	１．冷戦の終焉と国際社会の変容 ２．東アジア情勢と日本外交の変化 ３．55年体制の崩壊と日本政治の変化 ４．混迷する経済と社会 ５．よりよい未来にむけて	○	○		○	a: 冷戦終結後の世界への関心を高め，その時代の国際情勢や日本の動向について意欲的に調べ，日本や世界が直面している課題の歴史的背景に関する考察を深めようとしている b:冷戦終結後の国際情勢の変容について歴史的に考察するとともに，領土問題についてその知識を身につけている。 　グローバル化する世界の現状について歴史的に考察し，考察したことを適切に表現している。 d: 冷戦が終結した後，グローバル化が進展する一方，世界各地でナショナリズムが高まり地域紛争が多発するようになる中，日米同盟が強化されてきたことを理解し，その知識を身に付けている。 　冷戦が終結した後，EU や APEC などの地域統合･地域協力が目指される一方，東アジアでは冷戦時代の分断が継続し，地域の不安定要因となっていることを理解し，その知識を身に付けている。 　冷戦後も沖縄の基地問題が解決されていないことを理解しその知識を身に付けている。 　バブル経済の崩壊とともに，政官財の癒着を生み出した自民党の長期政権への批判が高まり 55 年体制が崩壊したこと，その後，政界再編や構造改革が目指されてきたことを理解し，その知識を身に付けている。 　新自由主義的な改革により，2002 年から長期の好況が続いたにもかかわらず，個人消費が伸びず日本社会の閉塞感が増していった要因を理解し，その知識を身に付けている。	授業プリント 定期考査 宿題プリント

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。